

テーマ

さくらプロジェクトⅣ

目標

将来の地域の担い手としてのしなやかな感性を育む環境づくりと体験活動

今年度の取組紹介

里山と田畑のなかに民家が点在する柳生地区。本地区は、「剣聖の里」として全国的にも名高く、多くの史跡と伝統が大切に守られてきました。柳生小・中学校の児童生徒数は計65名で1学年1学級の小さな学校区です。本事業は小・中学校の取組みを支援し、地域のシンボルとしての摩利支天山を再生し、ESDを軸とする地域遺産の継承を目指しました。

取組の概要

① 環境整備活動 摩利支天山再生

摩利支天山は、地域の過疎化と高齢化の中、地域や学校の独自の管理は困難となりました。平成22年、「地域再生のシンボル」として、地域と学校が協力して摩利支天山再生を進めました。現在では子どもたちや観光客が登り、眼下を見下ろしています。



② 伝統伝承活動

本校区では今年、第100回地区大運動会を保育園、小学校、中学校そして地域が合同で行うことができました。昼食後メッセージ付きの風船を参加者で飛ばし祝いあいました。また、日頃から地域の伝統である木剣体操や柳生音頭を授業に取り入れ、運動会でも毎年小中合同で演じ伝統を受け継いでいます。



今年度のまとめ

「地域で決める学校予算事業」で培ってきたものとして、「環境整備活動（ふるさとや自然を愛する心）」「伝統、文化の伝承活動（地域に伝わる文化や伝統を守り伝える心）」「学習支援活動（地域社会の担い手となり、仲間とともに協力しあい生きていく心）」を柳生中学校区地域教育協議会は大切にしてきました。今後もこの取組の継続を望みますが、統合校となる次年度は両校区の調整が必要です。成果としては、「学校づくりへの意識の深まり」「信頼関係の深まり」「学校教育の深まり」があります。従前より柳生地域の方々は、学校に大変協力的で、さらに、協力からともにより良い学校づくりを目指す「協働」へと生まれ変わりつつあります。

また、学校の教員だけでは教えられない数々の伝統や文化を次代に継承し、柳生の子どものための教育を充実させることができました。

来年度に向けて

来年度に向けては、4月から統合校として新たな校区での事業が展開されます。しかし過去5年間の築きは大切な土台です。ESDを大きな礎石とし、広大な校区の中で地域力を生かした教育活動を展開するので、今後の活動を見越してさらに多くの人材の確保が必要です。

テーマ

E S Dの視点を核にした多様な体験活動の展開

目標

地域資産や外部人材を活用し、本物に触れる体験学習やユネスコスクールとしての活動を行うことで地域の担い手を育てる。

今年度の取組紹介

○ニッポンバラタナゴ里親プロジェクト

近畿大学と提携した取組は今年度で4年目を迎え、昨年度の課題を踏まえて稚魚の保護や池の改修を行い、継続的に観察ができました。自然に親しみ、観察や手入れなどの活動を通して生物のつながりや命の営みを考える学習ができました。

今年度は5回の取組を実施しました。1回目は5月に河川調査・生物採取等の活動、2回目は6月に繁殖観察会・近畿大学生の講義、3回目は8月に稚魚観察会を実施しました。

346匹のバラタナゴが確認され、昨年の反省を活かし大雨シーズンまでに生態園のバラタナゴを避難させた稚魚を守った為、多くのバラタナゴの成長をみることができ、みんなで喜ぶことができました。

4回目は11月にビデオトープの池干し・個体調査を実施しました。5回目は、3月初旬に活動報告を実施した。今後も、バラタナゴの繁殖を継続して取組んでいきたいところですが、統合のため一旦近畿大学にバラタナゴを返却する予定です。



今年度のまとめ

・外部指導者による本物に触れる体験学習の充実と地域資産や伝統文化などを学習することにより、生徒に自信と地域への誇りを育むことを目指して取組み、その成果がみられました。

また、中学生だけでなく、小学生とも共に学習する機会を持つことで地域との協働・小中一貫教育の推進を図ることができました。本物に触れる体験活動で具体的には、環境学習としてニッポンバラタナゴ里親プロジェクト、地域学習の深化として地域の歴史を学び、自分たちで計画を立て調べ学習や現地学習を通じ世界遺産学習を深めることができました。伝統文化では日本剣道形、和楽器体験学習（箏）を通して習得・体験する学習ができました。人権学習・キャリア教育では、高齢者福祉施設を訪問し職業体験を通して入所者の方々と交流を深められました。星空観察では、小・中学生が大人と一緒に学ぶ機会を持つことができました。

来年度に向けて

・本物に触れる体験学習は、本校ならではの機動性を生かして全校体制での取組ができました。来年度は統合による閉校の為、地域のつながりを大事にしつつ両校の取組を基盤にして、積極的な取組を進め、あらゆる機会をとらえ、地域と連携し学校の存在感や活力をアピールしていきます。

テーマ

「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」の育成

目標

柳生のよさを知り、柳生を誇りに思う子どもを育てる

今年度の取組紹介

○柳生らしさを体験で学ぶ

子どもの時の体験は、一生の宝です。剣道という先人から柳生に引き継がれてきたことを、子どもたちは、体験を通して学んでいます。春から、竹刀を使い、「面、小手、胴」を打つ木剣体操を行います。第100回柳生地区大運動会では、地域の方に見ていただき、子どもたちが気合いを入れて竹刀を振る姿に、子どもの成長を頼もしく感じていただくことができました。冬には、地域の柳生剣友会、柳生中学校、保護者のご協力で『剣道大会』（今年度は第45回大会）を1月の厳寒の時期に行いました。試合に先立って、10時間の稽古を行い、寒さが厳しい中で、柳生の誇りである剣道の稽古により、子どもたちの心・技・体は鍛えられました。また、地域の歴史を学ぶ「柳生歴史教室」を行いました。本年も、「柳生一族、一刀石、十兵衛杉」のを中心に教えていただきました。子どもたちは普段目にしていない名所に、その歴史的意義を改めて感じることができました。剣道の体験と地域理解とを連動させた取組で、相乗効果が高いと思われます。



今年度のまとめ

- ・剣道以外にも、「茶摘み」「米づくり」「柳生焼き」「炭焼き」「抹茶」等の柳生地域の体験活動を行いました。また、「十兵衛杉」「家老屋敷」「一刀石」「正木坂道場」等の地域見学を行い、柳生ならではの地域見学体験活動を通して、今まで以上に自分たちの郷土を誇りに思う気持ちが強くなったように思われます。
- ・この事業も含めた教育活動は、積極的にホームページでも発信し、年間6000件以上（児童数46名）の閲覧があり、そういった面でも保護者や地域の皆様と連携が強いと実感しました。
- ・柳生剣友会の方々にお世話になり、第45回の剣道大会を開くことができました。木剣体操や剣道練習といった年間を通じた取組で、柳生の歴史を体で学ぶことができ、心身の鍛練や礼節等様々な力が身につけることができました。それは、剣道以外のことでも活かされると思われます。

来年度に向けて

- ・本事業の計画や目標等を、学校便りや地域広報誌等で保護者や地域の方々に伝えていきます。そうすることで、更なる協力や支援を頂くきっかけにしたいです。さらに、地域の人々と触れ合うことで、先人の知恵や歴史、自然、文化等を体験的に学ばせたいと思います。
- ・地域人材の更なる発掘や若い世代への協力を要請し、新しい取組も展開していきます。